

この手紙のテーマは「喜び」です。これを書いたパウロは獄中にいましたが、どんな状況にも支配されない喜びというものを持っていました。そもそもパウロが獄中で喜べたのは、この世の人たちとは全く違う価値観を知ったからです。私たちも自分の生き方の中に、聖書が教える価値観を持つことが大切です。そして、私たちがその価値観の中で生きるためには、古い自分に死ななければなりません。私たちは自分に死ぬことによって、初めて神が与えてくださる新しい命の中で生き、そこにある恵みを喜ぶことができるのです。

かつてのパウロは誇れるものを多く持っていましたが、しかし、彼は復活のキリストと出会って回心し、価値観が180度変えられます。かつては教会を迫害し、神の御心から離れて行く方向に生きていたパウロでした。その人が聖霊の力によってキリストを知り、今度は神の御心の方を向いて逆走する人生を歩み始めたのです。それによって彼は自分に与えられていた特権や、誇りとしていたものを全部取り去られていきました。しかし、パウロは今まで自分が宝のように大事にし、誇りとしてきたものを「塵あくた」と見なせるほどの恵みにあずかることができました。

犠牲なくしてキリストに従うことはできません。私たちが本当の意味で生きるためには、自分に死に、神の御心の中を歩まなければならないのです。しかし、たとえ大きな犠牲を払い、どんなものを失ったとしても、それ以上の恵みが与えられていくというのも真理です。その恵みを得るために私たちの進むべき道は、一人ひとりが神の御言葉を受け取って、その中に神の愛を感じて進む道です。そのために逆走することがあるかもしれません。しかし、逆走して見える風景は、どんな道と比べても恵みに満ちて見えることでしょう。

逆走をして多くの恵みを得たパウロでしたが、自分自身まだまだこの世界で得るべき恵みがあり、それを得るために信仰者が追い求めるべき三つのことを語ります。それは「キリストを知ること」、「キリストの復活の力を知ること」、「キリストの苦しみにあずかる」ことです。現状に満足しないで、この三つのことを追い求めていくときに、私たちの喜びの心は無限大に開かれていきます。やがては、いつも喜んでいる者に変えられていくことでしょう。その喜びを与えるために、神は私たちに向きを変えて出発するよう、今も一人ひとり語りかけておられるのではないのでしょうか。